

# 要保護層とその脱出への要因分析

白 沢 久 一

## 目 次

1. 要保護層への要因度
  - (1) 生活力形成の視点
  - (2) 要保護層の比率
  - (3) 要保護層への要因度の順位
  - (4) 自己努力領域について
2. 疲労度・食事得点と要保護脱出への要因分析
  - (1) 生活力の全項目上の要因分析
  - (2) 食事項目に関する因子分析
  - (3) 生活意識（態度）上の要因分析
3. 家庭文化・近所づきあいと要保護脱出への要因分析
  - (1) 生活力の全項目上の要因分析
  - (2) 家庭文化・近所づきあい項目に関する因子分析
  - (3) 生活意識（態度）上の要因分析
4. まとめ

## 1. 要保護層への要因度

### (1) 生活力形成の視点

律法主義的第三次生活保護引締め政策に対して、私なりには生活教育論的アプローチからの「生活力形成の課題」提起を行い、実践者に若干の注目を惹起した<sup>(註1)</sup>。しかし、その内容づくりに対しては実践的にも理

論的にもすすまず、それには、とりあえず(1)ケースごとの実践記録の積上げと、(2)社会調査による大量観察とが考えられ、研究室にいるものとしては「社会調査方式による分析」が当面の任務と考え、今日のコンピューターの発達と統計学の発達にささえられた“相関関係から因果関係へ”の展望を秘めた「要因分析」のプログラムによって、ここ2年間に参加した社会調査のデータを利用して、私なりの仮説で「生活力と生活関係の理論」への実証的分析を行うこととした。

「生活力」とは、①経済力(消費と生産)と②教育力(能力と人格)との統一であり、それは経済的土台と生活意識(態度)との関係でもある。今日、福祉切捨て政策の中で、それに強く反対しつつも、草の根からの「自己教育力」の形成が要保護層であればあるほど、特に第一次の規定が経済力にかかわるとしても、問われていると思えたからである。それは、第1に、かつての昭和30年前後のように、生活保護行政に「教育」論を問うことが、たちまち劣等処遇の役割にとりこまれかねないので、民主的で良心的な生活教育(生活指導)論さえ提起出来ないという不幸な時代にはしてはならないからである。第2に、より本質的な問題として「生活力形成」がもはや自然発生的には行われず、1人1人の自覚的意識的計画的な努力目標となってしまったことである。第3に、この「生活力形成」の自己努力が自然発生的には共同的(民主的)生活関係の形成にすすまず、逆に排他的(保守的)生活関係の形成へと進んでいるということである。そこで生活力形成の自己努力が共同的生活関係としての「共同的福祉社会」づくりをめざした「社会意識」形成へのモデルの接近につながればと考えているからである。

(注1) 拙著「公的扶助労働の基礎理論」勁草書房1982年3月。白沢久一、宮武正明編著「生活力の形成—社会福祉主事の新しい課題」勁草書房1984年11月参照

## (2) 要保護層の比率

福祉切捨て政策が言われ出した頃(1981年)より関係した表1-2-1の調査のデータを利用して、推定したところ(北大大型計算センターでのSPSSのプログラムにより算出)、札幌市民で21.8%、保育園家庭、A

表1-2-1 関係調査と要保護(生活保障額)層の比率

対 象(年)	調 査 主 体	調 査 目 的	依託・協力	回 収 率	有効票	要保護率推定	備 考
1. K小6年親('82)	田崎、藤井	生活力問題	卒論(村岡)	81.8%	90	20.0%	'83年ゼミ論(白沢ゼミ)参照
2. K中3年親子('82)	田崎、藤井	〃	〃(田崎、藤井)	71%	184	27.7%	'82年ゼミ論(白沢ゼミ)参照
3. 生業資金借受 世帯 ('84)	道社協	効果測定	道社協依託	借人書 100% (アンケート33.7%)	471 (159)	23.6%	報告書(準備中)参照
4. 札幌市民('83)	忍、白沢	ボランティア観	札幌市依託	30.3%	422	21.8%	札幌市企画調整局「札幌市民の ボランティア活動意識調査報告 書」昭59年3月)参照
5. 保育園親('83)	〃	〃	〃	56.0%	622	37.6%(注1)	
6. 学童保育(共)親('83)	〃	〃	〃	50.4%	324	26.8%(注2)	
7. 千歳市在宅身 障者 ('81)	市社協	障害者福祉観	忍、杉岡、白沢	74.8%	184	29.8%	市社協「千歳市在宅障害者の生活 と職業」(昭57年5月)参照
8. 全道難病者('81)	道難病連	実態調査	卒論(加藤)		1,137	31.3%(注3)	'83年ゼミ論(白沢ゼミ)参照
9. A障害者団体('83)	荃津、白沢	〃	卒論(荃津)	42%	122	37.7%	'83年ゼミ論(白沢ゼミ)参照
10. 在宅老人('82)	道いきがい振	就労実態	協力、白沢	79.4%	606	46.2%(注4)	「高令者の就労、生活実態調査報 告(続)」参照

注1. 注2. 年収を共稼ぎでボーナスが妻にもある家庭が多いと思われたので、年収15ヶ月で月収を推定した。

注3. 地域区分がなかったので2級地で計算した。

注4. この調査では家族の月収の項目がなかったので、老人単身世帯として推計したので、家族単位では、もっと低くなるものと思われる。なお、このケースは3市町村の老人を民生委員さんの協力によって実施されたもので、753ケースあったが、一定項目の無回答ケースは排除したところ、606ケースとなり、数も多かったので、606ケースを多変量解析の基礎とした。

注5. いずれも「生活と福祉」各年5月号の厚生省発表の「生活保護法による保障額の具体的事例」により算出した。

要保護層とその脱出への要因分析

障害者団体家庭で30%であり、1972年に北海道社会福祉協議会低所得委員会が北大教育学部教育計画研究室高山教授を中心に行った「大都市における低所得層の調査」(札幌市民対象)でも21.6%あったので、札幌市民の低所得層はこの10年間変化せずに幅広く存在していたものと思われる。

### (3) 要保護層への要因度の順位

要保護層への要因について、林已知夫氏グループによって開発された林数量化理論Ⅱ類(KHSPSSプログラム)によって、その要因を算出させた結果<sup>(註1)</sup>が表1-3-1の通りである。

(注1) 説明変数の設定については、各項目を2等分して、その中で偏相関の高い項目をKHSPSSのプログラムにはいる限りの変数にし、なお各説明変数の独立性を保つためにCROSS表のバイ係数又はクラマー係数の高いものはその一方を削除して算出させたものである。

第1に、経済的社会的条件をみると年収や家族数、そして家族形態である。第1位は、多くが中学生親と千歳市在宅身障者を除いて「年収」であり、第2位は「家族数」で、例えば、札幌市民、保育園親、千歳身障、難病連にあらわれている。次に家族形態(市民)や配偶者関係(保育・難病)が順位として高く出て来る。「住居」はA障害者団体と在宅老人に10位までに登場している。職業では、共同学童保育所(10位)のみであり、学歴は保育園親7位、中学生親1位、千歳市在宅身障者は5位になっている。特にK中学校親は道央の町なのでか高度校以上の人の方が低所得の要因が高く、保育園親でも、大学卒者は高卒者より要保護層への要因が高くなっている点では、もはや高学歴は収入保障の絶対的条件とは必ずしもないということである。

第2に、個人の生活意識(態度)である。必ずしも全調査でこれらの項目がとれたわけではないが、生きて行く力としてまず親の健康管理、家庭生活、労働能力、近所づきあいの視点でみてみたい。

①「健康問題」では、疲労度調査を行ったのはK小学6年親とに中学3年親子であるが、K小学校では疲労度項目が20位までに12項目も算出

## 要保護層とその脱出への要因分析

され、考えねばならぬ項目は「物事に熱心になれない」（3位）、「足がだるい」（4位）、「頭が重い」（8位）「ちょっとしたことが思い出せない」（12位）、「まぶたがピクピタする」（17位）である。K中学校親では「根気がなくなる」（2位）の「時々」が高くなっており、注目すべき内容と思われる。健康にとって基礎である睡眠リズムにつながる就床時間は「きまっていない」（9位）が要保護層への要因ともなっている。

②「家庭生活」では、1)家計管理2)子育て3)家庭文化が問われるが、第1の家計管理は調査項目に入れていたK中学生親子では10位には登場して来ていない。第2の子育てでは、保育園親で第5位の「子供の悪さに先生や警察官にいつけるといふ」に「時々言う」がウエイト数量として高くなっており、11位の「子供の欠点に激しく批判」に「よくある」としており、しつけの態度としては好ましくない内容が出て来ている。共同学童保育所では、第2位に「子供のしつけに手をかける時間がない」に「はい」と答えている人とのウエイト数量が高く、第7位の「子供と遊ぶ時間をなんとかしたい」に「ときどき」と答えている。子供の目ざめは自ら「おきられず」のウエイト数量が高いのは改善点である。K中学生親子調査では、要保護層ほど「働くことと金銭について子供に話すか」に対して「よくはなす」と答えているもののウエイト数量が高く、このことでは要保護層での好ましい事柄ではあるが、「1日にテレビをどの位みせているか」では「3時間以上」であり、要保護層ほどみせていることとなっており、今後の注意点である。学校での生活では要保護層ほど「学校でおどかされたか」では「ある」と答えたもののウエイト数量が高い事は注意を要する内容である。第3の家庭文化では、A障害者では「掃除は毎日しているか」では「いいえ」が多く、次に千歳市在宅身障者では第2位の結婚では「離婚」の要保護層へのウエイト数量が高くなっており、難病者調査でも第6位の配偶者関係では「離別」のウエイト数量が高くなっている。このことは障害等の困難性に対して家庭崩壊の危機が強く問われていることではなからうか。

③「仕事」では、千歳市在宅身障者調査では第4位で要保護層こそ満足が高く、難病でも第10位に妻が「主な働き手」となって行く状況で、困難なところほど仕事へのねがいがつよい。つまり、やっとつかんだ多就業形態による生活防衛対策である。

図1-3-1 K小学生家庭の要保護層への要因項目別タイエト数量分布表

相関比0.9880

順位	質 問	答(数値) -1.2	-1.0	-0.8	-0.6	-0.4	-0.2	0	+0.2	+0.4	+0.6	+0.8	+1.0	+1.2	偏相関
1	父の年収					400万円～							～399万		0.9519
2	疲労度シ、話をするのがいやになる					時々	ある			ない					0.9518
3	疲労度ソ、物事に熱心になれない					なし		時々						ある	0.9145
4	疲労度ウ、足がだるい					時々			ない				ある		0.9142
5	食事診断セ、暴饮暴食はしませんか					はい	いいえ		時々						0.9124
6	疲労度ユ、横になりたい			ある				時々					ない		0.9006
7	疲労度キ、目がつかれる					ない		ある					時々		0.8999
8	疲労度ア、頭が重い					時々		ない				ある			0.8693
9	疲労度ツ、物事が気にかゝる					ない	ある				時々				0.8651
10	言われたものの買ひもの(子供)					している				いない					0.8576
11	生活費のきりつめ方(光熱費)					無記入			きりつめている						0.8557
12	疲労度ク、ちょっとした事が思い出せない					ない		ある	時々						0.8416
13	1日の子供との対話の時間					1時間以上				1時間以内					0.8389
14	疲労度カ、ねむい					ない		時々	ある						0.8364
15	毎日献立を立てていますか					あらかじめ			直前に						0.8341
16	疲労度イ、全身がだるい					ある	ない			時々					0.8151
17	疲労度フ、まぶたがピクピクする					時々		ない				ある			0.7902
18	疲労度サ、考えがまとまらない					ある	時々			ない					0.7864
19	家族数						4人以下			5人以上					0.7793
20	食事診断ウ、食事のとき栄養のバランスを考えるか					時々		いいえ	はい						0.7645

(注) 外的基準 1、要保護層18人(20.0%) 2、要保護層72人(80.0%) 計90人(100.0%)

図1-3-2 K中学生家庭の要保護層への要因項目別ウエイト数量分布表

相関比0.8167

順位	質 問	答(数)	-1.2	-1.0	-0.8	-0.6	-0.4	-0.2	0	+0.2	+0.4	+0.6	+0.8	+1.0	+1.2	偏相関
1	父の学歴								中学生以下		高校以上					0.4637
2	根気がなくなる								ある	ない	時々					0.3786
3	父の年収								400万円～		～399万円					0.3740
4	一緒に買物をする								している		しない	時々				0.3659
5	働くことと金銭について子供に話すか								時々		よくする					0.3146
6	気がちる								時々		ある				ない	0.3099
7	1日にテレビをどの位みせているか								～3時間		3時間以上					0.2982
8	まぶたや筋肉がピクピクする								ある		時々	ない				0.2847
9	就床時間はきまっているか								いる		いない					0.2816
10	学校でおどろかされたか								ない			されている				0.2815
11	授業はよくわかりますか								わかる		わからない					0.2666
12	食事をとる時間はきまっていますか								ない		時々	ある				0.2641
13	父の年齢								40才～		～39才					0.2540
14	することに間違いが多くなる								ない	時々		ある				0.2505
15	インスタント食品はたべない								はい	時々	いいえ					0.2473
16	夜床につく時間がきまっているか								いる		いない					0.2459
17	共稼ぎ								している	いない		無記入				0.2425
18	外出の時子供のお守りや留守番をたのむ								ない	時々	している					0.2408
19	口がかわく								ない		時々	ある				0.2351
20	頭が重い								ある	時々					ない	0.2216

要保護層とその脱出への要因分析

図1-3-3 生業資金貸付世帯の要保護層への要因項目別ウエイト数量分布表

相関比0.5098

順位	質問	-1.2	-0.8	-0.6	-0.4	-0.2	0	+0.2	+0.4	+0.6	+0.8	+1.0	+1.2	偏相関
1	世帯の総月収				32.6万円～	12.8～32.6万円							～12.8万円	0.5198
2	家族数					1～2人		3～4人					5人～	0.2363
3	新事業の職業序列の上下				下降		同一	上昇						0.1672
4	お酒はどの位のみますか	毎日	飲まない	週2日のみ									無記入	0.1638
5	世帯第一欄者の月収						～50万円	50万円～					無記入	0.1539
6	申込者の現在の職業					勤労者	名目的自営	農・自営	無職					0.1525
7	世帯第一欄者の健康状態				弱		無・障	健						0.1390
8	事業開始年				無		昭53～	～昭53年						0.1387
9	疲れが残りますか				無		すぐ回復	残りやすい					いつも疲れている	0.1382
10	保証人の現住所					町村	市		札幌市					0.1250
11	世帯第二欄者の性別				無		女	男						0.1202
12	サービス利用1.福祉事務所(CW)						知らない	利用					不利用	0.1143
13	家族に家事を手伝わせているか					いいえ	はい	無	時々					0.1073
14	1日の睡眠時間はどの位ですか				8時間～	5～8時間	～5時間							0.1047
15	世帯第二欄者の健康状態						健	無・障	弱					0.1044
16	申込者の住居					借家	アパート	自家	公営住宅					0.1032
17	資金返済状況						正常	遅延						0.0987
18	家計簿をつけていますか							時々	はい	いいえ				0.0978
19	営業姿勢、計画的にすすめていますか							時々	無	はい	いいえ			0.0938
20	身障手帳の種類について						無記入	二種	一種					0.0918

(注) 無は無回答、外的基準は要保護層以下79人(23.6%)、要保護層以上255人(76.4%)計334人(100.0%)



図 1-3-4 札幌市民の要保護層への要因項目別ウエイト数量分布表

←要保護脱出

相関比0.6726 →要保護促進

順位	質 問	答(数量)	-1.0	-0.8	-0.6	-0.4	-0.2	0	+0.2	+0.4	+0.6	+0.8	+1.0	+1.2	+	偏相関
1	収入															0.7586
2	家族数															0.3635
3	家族形態															0.1823
4	施設を訪問し洗濯や清掃などに協力															0.1749
5	年令															0.1695
6	福祉は公私共同															0.1609
7	点訳や手話などで援助															0.1517
8	縁起が悪い事はしない方がよい															0.1350
9	スポーツサークル参加															0.1277
10	不幸があった時手伝う															0.1243
11	福祉は行政責任															0.1176
12	趣味、スポーツの特技を地域の福祉に															0.1172
13	社会福祉サービス観															0.1142
14	心身障害者の外出手助けをする活動															0.1124
15	本人がいくら努力しても社会で成功するとは限らない															0.1102
16	老人クラブに参加し生きがいをためることに助力															0.1055
17	ひまな時に訪して世間話をする															0.1021
18	留守にする時、ペットや盆栽の世話をたのむ															0.1020
19	住居															0.1993
20	世間から言われることはしない方がよい															0.0911

(注) DKは知らない、又はわからないの意味、以下同じ

要保護層とその脱出への要因分析

図1-3-5 保育園入所者の要保護層への要因項目別ウエイト数量分布表

相関比0.7669

順位	質問	答(数量) -1.2	-1.0	-0.8	-0.6	-0.4	-0.2	0	+0.2	+0.4	+0.6	+0.8	+1.0	+1.2	偏相関
1	年収				500万円～			270～480万円		～265万円					0.7959
2	家族数							2人～4人			5人～9人				0.4185
3	保育料							高い	このまま	無	安い				0.1601
4	長期間保育							無記入	いい	はい	時々				0.1321
5	子供の悪さに先生や警察官に いいつけるといふ							ある	ない	時々					0.1171
6	福祉サービス観							受益者負担	他の予算カット	無	不協大	負担やむなし			0.1139
7	学歴							高校	大学	短大	その他	大学院			0.1135
8	福祉は公民共同							DK	思わない	思う					0.1107
9	スポーツサークル参加							入っていない	出る	たまに出る程度					0.1105
10	配偶者の有無							無	有	無記入					0.1084
11	子供の欠点に激しく批判							ない	時々	ある					0.1059
12	貧困問題への対応							公的	本人	無	家族				0.0976
13	子供の養育費負担の責任							両方	両親	無	社会				0.0954
14	ひまな時に訪問して世間話をする							する	時々	しない					0.0831
15	バザーや募金活動への参加							DK	参加	出来ない					0.0826
16	町内会、自治会参加							出る	名前だけ	入っていない					0.0796
17	施設を訪問し話し相手になる活動							出来ない	参加	DK					0.0715
18	毎月決まった貯蓄をしますか							時々	はい	いいえ					0.0712
19	保育料は金額公費で負担して もらいたい							いいえ	はい	時々	無				0.0700
20	仕事をつづける経済的理由							なし	将来	豊かに	その他	生活出来ない	無		0.0664

図1-3-6 共同学童保育所入所者の要保護層への要因項目別ウエイト数量分布表

相関比0.7311

順位	質問	答(数) 1 2	-1.0	-0.8	-0.6	-0.4	-0.2	0	+0.2	+0.4	+0.6	+0.8	+1.0	+1.2	偏相関
1	年収				600万円～	330～580万円								～325万円	0.7857
2	子供のしつけに手をかける時間がない							いいえ 時々 はい							0.2037
3	勤務への気持上の理由							収入 楽しい 勉強 生きがい みんなが働くから							0.1886
4	目ざめ							ひとりで 起されて 仲々おきれない							0.1810
5	日・祭日は家族一緒に過しますか							いいえ 時々 はい							0.1799
6	仕事をつづける経済的理由							生活出来ない 量かに 将来							0.1785
7	子供と遊ぶ時間をなんとかしたい							はい いいえ 時々							0.1761
8	病気や忙しい時、子供の世話する人が欲しい							はい 時々 いいえ							0.1757
9	友達							1人で 5人以上 2人～4人							0.1629
10	職業							自営業 会社員 教員 公務員 無 パート							0.1507
11	朝家族全員で「おはよう」と声をかける							いいえ はい 時々							0.1498
12	歯みがき							せず 朝晩 朝晩だけ							0.1441
13	学習の用意							自分で出来ない							0.1414
14	子どもの自由な遊びが心配で1人 人で行動することを望まない							前日 その日							0.1312
15	いつも子供と一緒にいて身の まわりの世話をする							ない 時々 ある							0.1286
16	福祉サービスについて							不協大 他の予算カットで 受益者負担							0.1275
17	毎月決まった貯金をしていますか							はい 時々 いいえ							0.1261
18	遊び場所							せまい所 広い場所 家の中							0.1250
19	年令							～29才 30～39才 40才～							0.1247
20	子供が悪きをした時、先生や 警察官にいつけるといふ							時々ある ない							0.1161

要保護層とその脱出への要因分析

図1-3-7 千歳市在宅身障者の要保護層への要因項目別ウエイト数量分布表

相関比0.6598

順位	質問	答(数量)	-1.2	-1.0	-0.8	-0.6	-0.4	-0.2	0	+0.2	+0.4	+0.6	+0.8	+1.0	+1.2	偏相関
1	家族数								2人	1人	3人	5人以上				0.4352
2	結婚								結婚			未婚			離婚	0.3946
3	入浴介助		有								無					0.3540
4	仕事について					やや不満			不満	満足						0.3054
5	学歴						短大以上	中学	高校	小学校						0.2997
6	家庭生活について							不満	満足			やや満足				0.2852
7	何かの保証人になってもらう時						家族			親せき	友人					0.2828
8	障害者福祉協会支部の認知	-1.8 参加								名前のみ	不参加	知らない				0.2825
9	年収						300万円～	150～299万							～149万	0.2820
10	収入満足感						満足	やや不満		不満						0.2738
11	サークル活動							なし				あり				0.2614
12	家の留守中のこと等を頼む時の相談							友人	親せき		家族					0.2473
13	(福祉協会未加入者に)参加したいと思いますか					参加	不参加	DK							無記入	0.2425
14	友達とのつきあい						不満	満足		やや満足						0.2370
15	障害種類	1.5 精薄						聴覚	内部障害	肢体不自由	視覚					0.2286
16	買物							無		なし						0.2079
17	障害となった原因							社会的	疾病	その他	出生時					0.2058
18	あなたは現在働いていますか							はい			いいえ					0.1982
19	電話のうけとり							無			有					0.1881
20	家族のことについて相談する時							親せき	家族		友人					0.1808

図1-3-8 全道難病家庭の要保護層への要因項目別ウイット数量分布表

相関比0.8239

順位	質問	答(数量)	-1.2	-1.0	-0.8	-0.6	-0.4	-0.2	0	+0.2	+0.4	+0.6	+0.8	+1.0	+1.2	偏相関
1	年収				100~199万	~99万									1.5 200万~	0.8885
2	家族数						2人	3人	4人~	1人						0.2092
3	病気に気づいた年齢						70代	50代	40代	20代	30代	10代	~9才	60代		0.1344
4	会話をする事							不自由ない	どうにかできる	できない						0.1135
5	相談相手が欲しい							無	有							0.1058
6	配偶者関係							未婚	夫・妻有	死別	離婚					0.0990
7	保護者の職業の生活について							無	有							0.0937
8	年齢															0.0922
9	主な働き手(本人)						20~29才	1~9才	60~69	50~59	10~19	30~39	40~49才	50~59	70~87才	0.0875
10	〃(妻)								有	無						0.0874
11	生保受給者に今の制度で不充分?								無	有						0.0869
12	生活上の相談相手, 病院の相談係								無	有						0.0868
13	働き手の人数(有職人数)															0.0841
14	住居															0.0818
15	家庭内問題(人間関係)															0.0793
16	患者の生活(近所の理解)								有	無						0.0692
17	身障手帳は何級か															0.0628
18	診断がつくまでの期間															0.0542
19	家庭内の問題(医療)															0.0478
20	生命保険, 傷害保険等に入っていますか															0.0402

要保護層とその脱出への要因分析

図1-3-9 A障害者団体員の要保護層への要因項目別ウエイト数量分布表

相関比0.8848

順位	質問	答(数値)	-1.0	-0.8	-0.6	-0.4	-0.2	0	+0.2	+0.4	+0.6	+0.8	+1.0	+1.2	偏相関
1	年収	-1.2		158~380万円		400万円~							~150万円		0.8921
2	住居					持家		借家					公営住宅		0.4782
3	新聞をよんでいますか					いいえ		はい					時々		0.4648
4	毎月の収入支出を家族が知り あっていますか			いいえ				はい		時々					0.4402
5	総合的福祉法制度に							賛成	DK			反対			0.4134
6	ひまな時に訪問して世間話をする					している			時々	いない					0.4037
7	今後の政權							革新	中道	保守					0.3773
8	現在の稼働							働いている	働いていない						0.3643
9	「障害者は働くよりも食える 年金を」について							間違っている	その通り	DK					0.3554
10	身障手帳(種)							一種	二種						0.3527
11	家族やテレビ・新聞のことを 話し合いますか					時々		いいえ	ない						0.3518
12	「国民生活はおびやかされて いない」について					はい		いいえ	半々						0.3421
13	掃除は毎日していますか					はい		時々	いいえ						0.3306
14	「差別の残っている社会」について					半々		はい	いいえ						0.3296
15	暮し方について							家族	社会	個人					0.3252
16	買物は必要な物だけを買うよ うにしていますか							はい	時々	いいえ					0.3154
17	障害の原因							その他	労災等	出生時					0.3047
18	買い物をするのむ時					友人		ヘルパー	家族						0.3017
19	学歴							高校	中学	短大以上					0.2972
20	家具や電気製品をこわれたら 修理して使う							はい	いいえ	時々					0.2832

(注) DKはわからない。

図1-3-10 在宅老人の要保護層(個人)への要因項目別ウエイト数量分布表

相関比0.5005

順位	質 問	答(数量)	-1.2	-1.0	-0.8	-0.6	-0.4	-0.2	0	+0.2	+0.4	+0.6	+0.8	+1.0	+1.2	偏相関
1	年収			100~300万円	300~										~100万	0.9945
2	老人適職(留守番,保育,付添)								無 有							0.1225
3	住宅								借家 持家 公住							0.1166
4	生活の満足								まあまあ 満足 不満							0.1066
5	老人適職(宿直,駐車場)								無 有							0.1031
6	望ましい就労形態					常雇	日夜パート	週半分	無	日中パート						0.1015
7	地域								I町 O町 E市							0.0917
8	公的年金の受給								受けている 無配入 いない							0.0804
9	老人適職(農漁繁忙期手伝)								有 無							0.0619
10	〃(屋内の清掃,美化)								有 無							0.0616
11	年齢								65~69才 70~74 60~64							0.0557
12	老人適職(水道,ガス検針)								有 無							0.0553
13	生活の維持								出来る 臨時出費に困る 無 足りない							0.0538
14	無職理由(健康に自信なし)								無 有							0.0491
15	働く理由(生計維持)								有 無							0.0472
16	家族形態								単身 三世代 無 二世世代 夫婦							0.0421
17	現在の職種								教員 その他 労働者 農漁 無 自営							0.0416
18	就労条件の改善								給与額 不必要 時間							0.0413
19	事業団の認知								きいた 無 知らない 知っている							0.0396
20	年金(その他の公的年金)								有 無							0.0364

要保護層とその脱出への要因分析

④「近所づきあい」では、市民の「不幸があった時手伝う」に要保護層のウエイト数量が高く反応しており、中学生親は「一緒に買物をする」に「時々」が高く、他は10位までに登場してこない。このことは必ずしも昔しの長屋文化の積極面があるとも考えられない。

なお、市民調査のみに行った「価値意識」の項目の中で、「縁起が悪いことはしない方がよい」が要保護層ほど高いウエイト数量となっていたことは注目に価いする。

⑤最後に「福祉政策意識」であるが、「福祉は公私共同」への賛意が項目のあった中で共同保育所を除いて市民（6位）保育所親（8位）で強く出ており、福祉サービス費用負担では要保護層こそ「無記入」「不拡大」「他の予算カット」が強くなっているが、自益者負担はマイナス数量となっている。そして「政権支持」ではA障害者団体のみしか調査項目になかったが、要保護層への要因度として今後の政権が7位で、その内容は要保護層ほど保守政権であることは注目にあたいする。

#### (4) 自己努力領域について

前節で述べたプログラムの説明変数を、(1)自己努力可能な項目（生活リズム、食事得点項目、養育態度、家庭文化、近所づきあい、地域団体参加等）、(2)社会観にかかわる社会意識、(3)身体的社会的条件（疲労度、ADL、収入、世帯人員、障害等）に別け、それぞれの相関比の百分率をみると、その説明率が算出される。このことは「自己努力可能な項目」の比率を推定することも可能なので、生活力にかかわる項目が多くはいった調査で、すくなくとも生活力アンケート200以上の調査を中心にみれば、3割～4割になっている。自己努力不可能と思われる身体的社会的条件が5割位（中学生の調査を除いて）であり、残りの5割の中でも自己努力可能な項目はすくなくとも3割は考えられ、この自己努力可能な比率を中心に、中間の「社会意識」とのかかわりを研究することによって、自己努力不可能と思われる政策的課題の実現によって、変化させようという展望であり、つまり自己改革→社会意識の変革→社会制度の変革という展望にむけた自己努力の課題としてみようという視点なのである。

しかも、自己努力可能と思われる「家庭の問題」と「近所、団体参加



表1-4-1 要保護層以下への個人的努力、社会観、身体的社会的条件の相関比率(林数量化Ⅱ類)

(注) ( )内はウエイト数量のもっとも高いカテゴリー

		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	相関比	相関比率
保育園親	1. 個人的努力	夫の家事(いいえ)	月決め貯金(いいえ)	子供の弁護(時々)	父母の会(名前だけ)	朝食欲(正常)						0.2234	29.1%
	2. 社会観も追加	保育料(低い)	保育料公費(無記入)	行事参加(行く)	夫の家事伝(いいえ)	施設訪問(どちらとも)	子供の弁護(時々)	長時間保育(時々)	経済上(必要な収入)	父母の会(名前だけ)	朝食欲(正常)	0.4094	53.3%
	3. 身体的社会的条件も追加											0.7669	100.0%
学童保育親	1. 個人的努力	夫の家事伝(いいえ)	月決め貯金(いいえ)	日祭日家(はい)	日ざめ(起られぬ)	歯みがき(朝だけ晩だけ)						0.2504	34.2%
	2. 社会観も追加	(いいえ)	(いいえ)	( )	( )	福祉行事(時々行く)	歯みがき(朝晩のみ)	朝の挨拶(時々)	自由遊び(よくある)	病児時の世話(いいえ)	経済上(必要な収入)	0.3045	41.6%
	3. 身体的社会的条件も追加											0.7311	100.0%
中学生家庭	1. 個人的努力	食事時間のきまり(はい)	暴飲暴食(ない)	子供の遊び(しない)	牛乳(はい)	留守番(よくしてゐる)	働くこと(よくする)	不審時手伝(よくする)				0.3759	46.0%
	2. 社会観も追加	共稼ぎ(無記入)	留守番(よくする)	働くことを子供にはよく(はなす)	学校でのおど(よくある)	買物(しない)	貯金(教育)(しない)	食事時間のきまり(ある)	インスタント(いいえ)	就床時間(きまっていない)	牛乳(はい)	0.6566	80.3%
	3. 身体的社会的条件も追加											0.8367	100.0%
A 障害者団体員	1. 個人的努力	おすわけ(していない)	掃除(いいえ)	手伝(時々)	世間話(時々)	かしかり(している)						0.2611	28.6%
	2. 社会観も追加	テレビで話(はい)	新聞を読む(時々)	貸借(している)	子守り(している)	旅行時介助(ヘルパー)	差別社会(はい)	毎日の掃除(いいえ)	買物をするのも時(家族)	おすわけ(否)	今後の政權(保守)	0.4875	53.4%
	3. 身体的社会的条件も追加											0.9132	100.0%

要保護層とその脱出への要因分析

の問題」を、林数量化第II類プログラムで、その第5位までをみても(表1-4-1)、自己努力項目が好ましい結果となっているのは、保育園親で「朝食食欲(正常)」のみで、他は好しい内容となっていない。学童保育親でも「日祭日家族と一緒に(はい)」のみである。中学生では「食事得点項目」(中学生の調査用紙のみの項目)が多く、それ以外では近所づきあいでの「留守番(よくしている)」が5位にあり、6位に「働くことをよくはなす(よくはなす)」が要保護層に高くなっていることは逆に貧困なるが故のほほえましい内容である。他に「物のかしかり(している)」の近所づきあい項目が第5位となっている。

## 2. 疲労度・食事得点と要保護脱出への要因分析

### (1) 生活力の全項目上の要因分析

SPSSのNEW REGRESSIONプログラムのステップ方式による標準化偏回帰係数(BETA)によって、要因関係をみる事が出来る。特にパス解析の一つの特徴である間接効果も含めて、その要因度の量を考える事が出来る。

そこで、外的基準を「要保護層脱出率」として、初めに数量となっている説明変数をとりあげて、算出させた<sup>(註2)</sup>。

(注1) 要保護脱出率は、地域別、人員別を条件に(月収÷要保護水準)×100によった。

(注2) SPSSのNEW REGRESSIONのSTEP方式によるプログラムであり、詳しくは盛山和夫、野口裕二、都築一治著「社会学のためのTSS入門」北大社会行動学研究室1983年178頁。  
なお、学歴は通常の在学年数の合計とした。

表2-1-1 要保護脱出率のプロフィール

	K 小学校親	K 中学生家庭	生業資金借受世帯
平均	163.9	358.0	209.5
S D	111.9	147.1	180.0

(注) 生業資金借入者の算出は月収で計算したが、事業費を差引くと平均135.8、S D 77.2となっている。

## 要保護層とその脱出への要因分析

要保護層脱出率のプロヒールは、表2-1-1の通りである。この要保護層脱出率へパスダイヤグラムを作成したものが図2-1-2～5である。

K小学生家庭では、要保護脱出率への経済的要因として高いものは、父の年収、母の年収であり、生活態度要因としては食事得点<sup>(注1)</sup>であり、次に疲労得点<sup>(注2)</sup>(数が多いほど不良なので実際はマイナス要因)である。逆にマイナス要因は近所づきあい得点である。このことは、疲労をおしでの要保護脱出要因となっており、近所づきあいもせずに要保護脱出率を高めているということがうかがえる。間接効果は発生していないが、生活態度項目で家庭管理得点<sup>(注3)</sup>と近所づきあい得点が出発起点に位置しており、間接効果は家庭管理得点0.152、近所づきあい得点-0.045となるので、生活態度的要因は「家庭管理得点」が高いということが伺える。

K中学校家庭では身体的経済的条件のみが要因として高く、1位父の年収、2位母の年収、3位父の年齢であり、マイナス要因は世帯人員となっている。

(注1) 第6回日本青年学生集会「独身青年学生の健康と食生活を考える」分科会提出のもの。

(注2) 日本産業衛生協会作成のもので、篠崎次男著「健康の自己診断」128頁参照。

(注3) 次の11項目の該当に1点をつけて、点数化したものである。

1. 家計簿をつける。
2. ローンは20%以内。
3. 貯蓄をする。
4. 献立をたてる。
5. 栄養中心に料理する。
6. 調理品を利用しない。
7. 掃除をする。
8. みだしなみを気にする。
9. 衣類は計画的にかう。
10. 家族の協力、手伝いがある。
11. TVはきめてみている。

生業資金借受世帯では、経済的土台では同じく月収がプラスとなり、家族数がマイナスとなっている。生活意識上の項目では、近所づきあいが高く、次に食事得点となっている。

全体的に、生活力の全項目(経済的土台と意識上の上部構造項目)の特徴は、

1. いずれも経済的土台では、月(年)収が要保護脱出へのプラス要因となり、家族数はマイナス要因となっている。

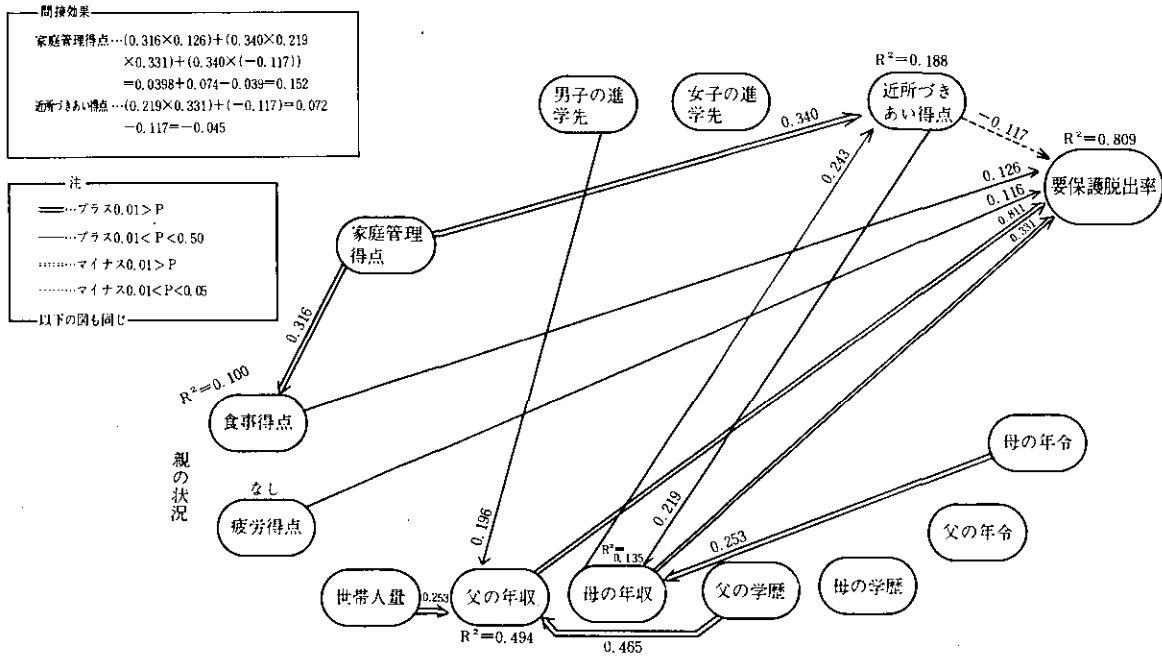


図 2-1-2 K小学生家庭の要保護脱出へのパスダイヤグラム

要保護層とその脱出への要因分析

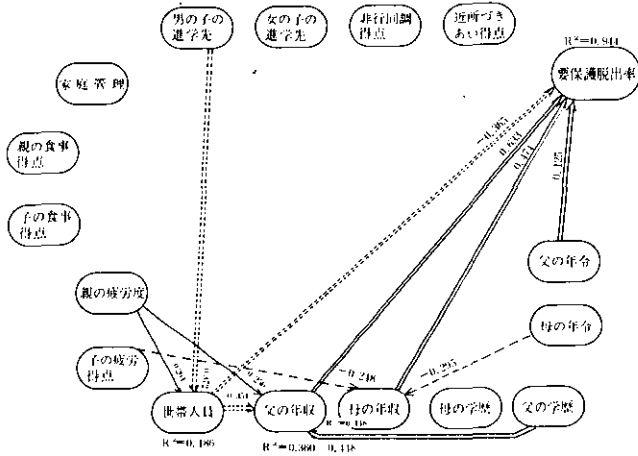


図 2-1-3 K中学生家庭の要保護脱出へのパスダイアグラム

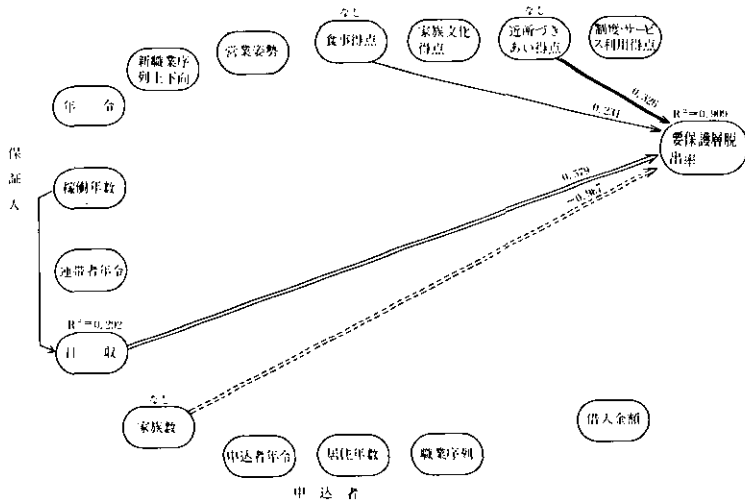


図 2-1-4 生業資金受給者の要保護層脱出へのパスダイアグラム (全体)

2. 上部構造的「生活意識(態度)」では食事得点がK小学校親と生業資金借受世帯でプラス要因となっている。疲労度はK小学校親ではプラス要因(実際は疲労度は高いことが要保護脱出にプラスなので、我々のモデルからすればマイナス要因)となり、疲労度の高さ故の要保護脱出となっている。

### (2) 食事項目に関する因子分析

食事項目に対する因子分析(主因子)による分析は表2-2-1の通りである。K小学校親, K中学生親, 生業資金受給世帯に共通した因子として、野菜(重視)性, 定期(規律)性があり、次に多いのは、おちつき性, バランス性, 手づくり性である。

### (3) 生活意識態度上の要因分析

疲労得点を肉体的疲労度・精神的疲労度・局所的疲労度に3分割し、なお食事得点は因子に分割し、貯蓄率, 家庭管理得点に、男子の進学希望先・女子の進学希望先を加えて、つまり生活意識上の項目を説明変数として、要保護脱出率への要因をパスダイアグラムによって分析した。

K小学校家庭では、直接効果では男子の進学希望先, 次に女子の進学希望先が強い要因となっている。間接効果としては近所づきあい得点0.263となっている。

K中学校家庭では、男子の進学希望先のみとなっている。このことは、要保護脱出率への要因として、男子の進学希望先の高さが脱出への意欲をもたらしているものと考えられる。

次に、純粋に親子の疲労度3区分, 食事得点(親)の因子分析による得点で考えてみれば、K小学校家庭では要保護脱出への要因項目を算出させえなかったが、K中学生家庭では、親の肉体的疲労度が高いものほど脱出率が高くなり、しかも食事の因子得点では「食事のバランス」性因子となり、間接効果は家庭管理得点が高くなっている。

生業資金受給では、要保護脱出率への要因は「食事のバランス」性因子がマイナスとなっている。いかにこの人達に無理しているかが理解出来る。

要保護層とその脱出への要因分析

表 2-2-1 食事項目に関する因子分析 (主因子法, バリマックス回転後)

問	因子	K 小学校親				K 中学校親			
		1	2	3	4	1	2	3	4
214. 朝食は毎日とりますか		0.120	<b>0.828</b>	-0.002	0.094	<b>0.785</b>	-0.033	0.113	0.204
215. 毎日一本以上の牛乳を飲んでますか		0.163	0.175	0.240	0.170	0.135	0.002	0.024	0.046
216. 食事のとき栄養のバランスを考えますか		<b>0.422</b>	0.065	0.118	0.391	-0.012	0.084	<b>0.629</b>	0.122
217. 毎日、肉や魚を食べていますか		0.279	0.086	0.130	<b>0.580</b>	0.141	0.077	<b>0.484</b>	0.028
218. 豆腐や豆類をよく食べますか		<b>0.587</b>	-0.019	0.234	-0.052	0.056	0.131	0.330	0.019
219. 野菜をよく食べますか		<b>0.800</b>	0.126	-0.024	0.018	-0.049	<b>0.597</b>	0.353	0.028
220. 色のこい野菜をよく食べますか		<b>0.679</b>	0.019	0.063	0.231	0.042	<b>0.961</b>	0.059	0.156
221. 海藻類をよく食べますか		<b>0.531</b>	0.174	0.056	0.292	-0.068	0.229	0.126	<b>0.417</b>
222. 果実をよく食べますか		<b>0.495</b>	0.118	0.028	0.227	-0.082	0.268	0.081	0.103
223. 一日三回食事をとりますか		0.155	<b>0.859</b>	0.263	0.005	<b>0.947</b>	0.033	0.127	0.069
224. インスタント食品はたべない		0.053	0.019	0.141	<b>0.563</b>	0.070	0.041	0.087	-0.052
225. 食事をとる時間はきまっていますか		0.218	-0.053	<b>0.442</b>	0.354	0.276	-0.160	0.275	0.159
226. 落ちついて食事ができますか		0.085	0.018	<b>0.610</b>	0.319	0.144	0.001	-0.064	<b>0.607</b>
227. 暴飲暴食はしませんか		0.362	0.142	0.174	0.203	0.039	0.045	0.124	0.327
228. 食べる時はよくかみますか		0.005	0.325	<b>0.686</b>	-0.022	0.047	0.024	0.035	0.347
固有値		3.710	1.490	1.080	0.547	2.202	1.678	0.790	0.640
命 名		バランス性	定期性	おちつき	手づく性	定期性	野菜性	バランス性	おちつき

問	因子	K 中学校親		生業資金受給世帯				
		5	6	1	2	3	4	5
214. 朝食は毎日とりますか		-0.045	0.181	-0.021	<b>0.924</b>	0.122	0.163	0.062
215. 毎日一本以上の牛乳を飲んでますか		0.032	<b>0.447</b>	0.122	0.248	0.381	0.173	-0.176
216. 食事のとき栄養のバランスを考えますか		0.078	0.258	0.319	0.145	<b>0.628</b>	0.121	-0.157
217. 毎日、肉や魚を食べていますか		0.039	-0.036	0.076	0.100	<b>0.568</b>	0.061	0.176
218. 豆腐や豆類をよく食べますか		0.015	-0.142	<b>0.513</b>	-0.000	0.126	0.170	-0.037
219. 野菜をよく食べますか		-0.002	-0.143	<b>0.869</b>	0.171	0.076	-0.064	-0.204
220. 色のこい野菜をよく食べますか		0.063	0.118	<b>0.636</b>	0.066	0.284	-0.007	0.165
221. 海藻類をよく食べますか		0.014	-0.376	<b>0.484</b>	-0.075	0.067	0.230	0.160
222. 果実をよく食べますか		0.248	-0.190	<b>0.427</b>	0.036	<b>0.441</b>	0.035	-0.120
223. 一日三回食事をとりますか		0.075	0.054	0.069	<b>0.682</b>	0.154	0.177	0.014
224. インスタント食品はたべない		<b>0.699</b>	0.072	-0.124	-0.055	-0.187	-0.093	<b>0.520</b>
225. 食事をとる時間はきまっていますか		0.103	0.163	0.140	0.148	-0.001	<b>0.683</b>	0.120
226. 落ちついて食事ができますか		0.015	-0.073	0.000	0.250	0.266	<b>0.553</b>	-0.184
227. 暴飲暴食はしませんか		0.042	0.027	0.149	0.116	0.164	0.122	<b>0.473</b>
228. 食べる時はよくかみますか		-0.161	0.179	0.279	0.285	0.258	0.361	-0.006
固有値		0.529	0.444	3.500	1.537	0.771	0.637	0.574
命 名		手づく性	牛乳性	野菜性	定期性	バランス性	おちつき	興奮性

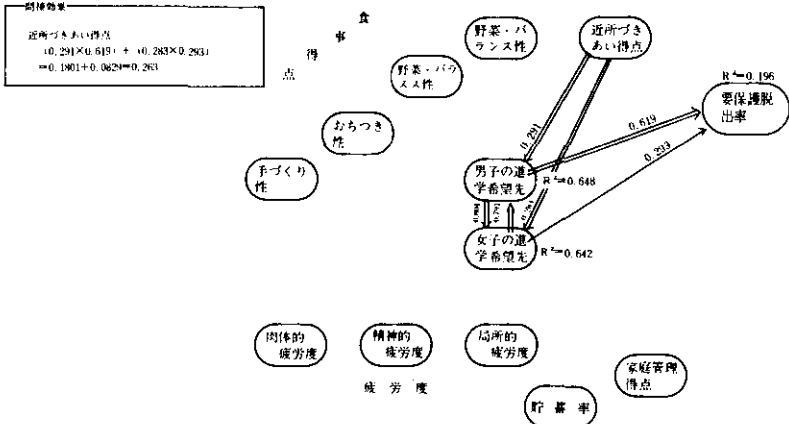


図 2-3-1 K小学校家庭の要保護層脱出率への疲労度，食事因子，家族管理上のパスダイヤグラム

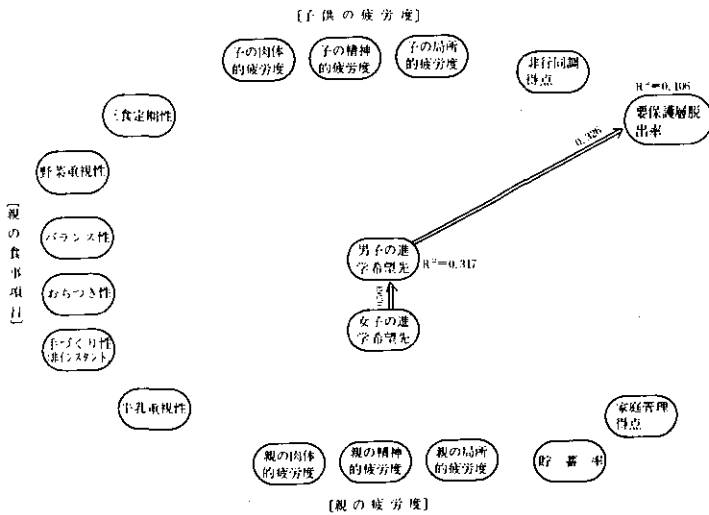


図 2-3-2 K中学校家庭の要保護層脱出率への生活態度項目上のパスダイヤグラム



要保護層とその脱出への要因分析

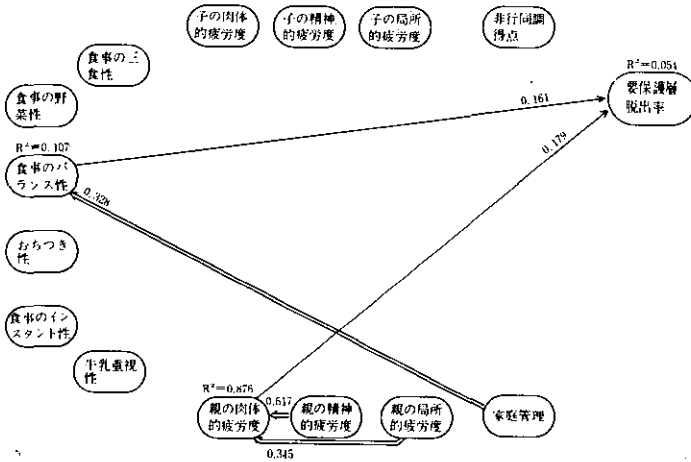


図 2-3-3 K中学校家庭の要保護層脱出率への食事因子・生活態度上のパスダイアグラム

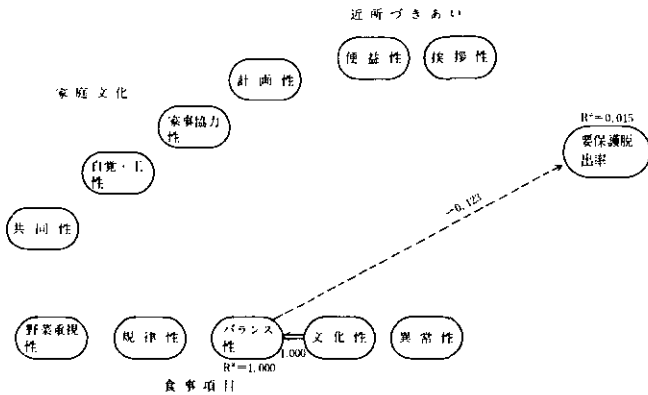


図 2-3-4 生業資金借受者の要保護層脱出への生活態度上の因子のパスダイアグラム

### 3. 家庭文化・近所づきあいと要保護脱出への要因分析

#### (1) 生活力の全項目上の要因分析

主として家庭文化<sup>(注1)</sup>・近所づきあい項目<sup>(注2)</sup>を調査したデータを中心に、要保護脱出率を算出させた。

(注1) 柴野徹夫、菅沼副夫「日本の貧困」302～3頁(新日本出版社)の「あなたの家族を崩壊させないためのチェックポイント26項目」よりピントをえて、北海道社会福祉協議会民生部依託の「生業資金効果測定」のアンケートとして、同会林主事、小泉部長、その他職員の方々と協議して低所得者に該当する項目を「家庭文化」項目として作成したもので、表3-2-1を参照のこと。家庭内の結束力と計画力が、貧困と闘う時に重要なポイントではないか。それが社会の共同化と計画化につながればという願いからのものである。点数化は単純に「1. ない 2. 時々 3. はい」を合計させたものである。

(注2) 近所づきあい項目は、北海道社会福祉協議会の「在宅福祉サービス研究会」の調査より、忍博次、久富善之氏等によってつくられた項目であり、表3-2-2を参照。点数化は単純に「1. していない 2. 時々する 3. している」を単純に合計したものである。

そして、その要保護脱出率のプロヒールは表3-1-1の通りである。

表3-1-1 要保護脱出率のプロヒール

	市 民	保育所親	共同児童保育所親	A障害者団体会員
平 均	188.6	163.5	174.8	178.6
S D	108.4	146.4	74.5	93.9

パスダイアグラムを作成すると、図3-1-1から図3-1-4となるが、いずれも間接効果の計算によって、直接効果の順序が変化することはない。そこで、ここでも月収がもっとも強いプラスの要因となり、

## 要保護層とその脱出への要因分析

逆に家族数はずっと強いマイナス要因となっている。その中でも「生活態度」的自己的努力の可能性をさぐるために、要保護脱出率への第一次、第二次要因へのダイアグラムによってみたい。

市民では、第一次要因としてプラス要因が高い「月収」では「文化サークル」がかかわっている。次に価値意識の「共同体規制」が第一次のプラス要因として高くなっており、この「共同体規制」に対して価値意識の「身分意識」と「精神主義」がプラスの要因ともなっている。反対に、第一次要因がマイナスで最も高い数字であった家族数を通じてみると第二次要因として「近所づきあい」「PTA参加」「父母の会」が関係づけられ、結果的には要保護脱出率はマイナスとなっており、このことは要保護層ほど近所づきあいや地域のフォーマルな団体参加が強いとも考えられる。

保育園親の要因でも、プラスの第一次要因の月収を通じて第二次要因をみると、家庭文化得点と文化サークルがかかわり、マイナスの第一次要因の世帯人員をみても、「PTA」「拒否的養育態度」の第二次要因がかかわり、次のマイナスの要因としての「PTA参加」は「父母の会」「スポーツサークル」「町内会」が第二次要因としてかかわり、全体として要保護層脱出率へはマイナス要因として働くことが理解出来る。

学童保育所親の要因では養育態度、生活リズム、家庭文化、近所づきあいは第二次要因としても発生せず、もっぱら地域団体のみである。特にマイナス要因としての世帯人員を通じて「PTA」「町内会」があり、2次のマイナス要因の「町内会」を通じて「婦人会」が第二次要因としてかかわっている。

A障害者団体員の場合は、他の場合と同じく、年収がプラスに、家族数がマイナスになっているが、プラス要因として歩行が関わっている。第二次要因では「近所づきあい得点」が、年収を通じてプラス要因となっている。

全体的に生活力的視点の中で、以上の結果をまとめると次のように言えると思う。

1. 家庭文化得点では（保育園親）月収を通じてプラス要因となっている。
2. 近所づきあい得点では前章でのダイアグラムによれば、K小学校

[ボランティア観]

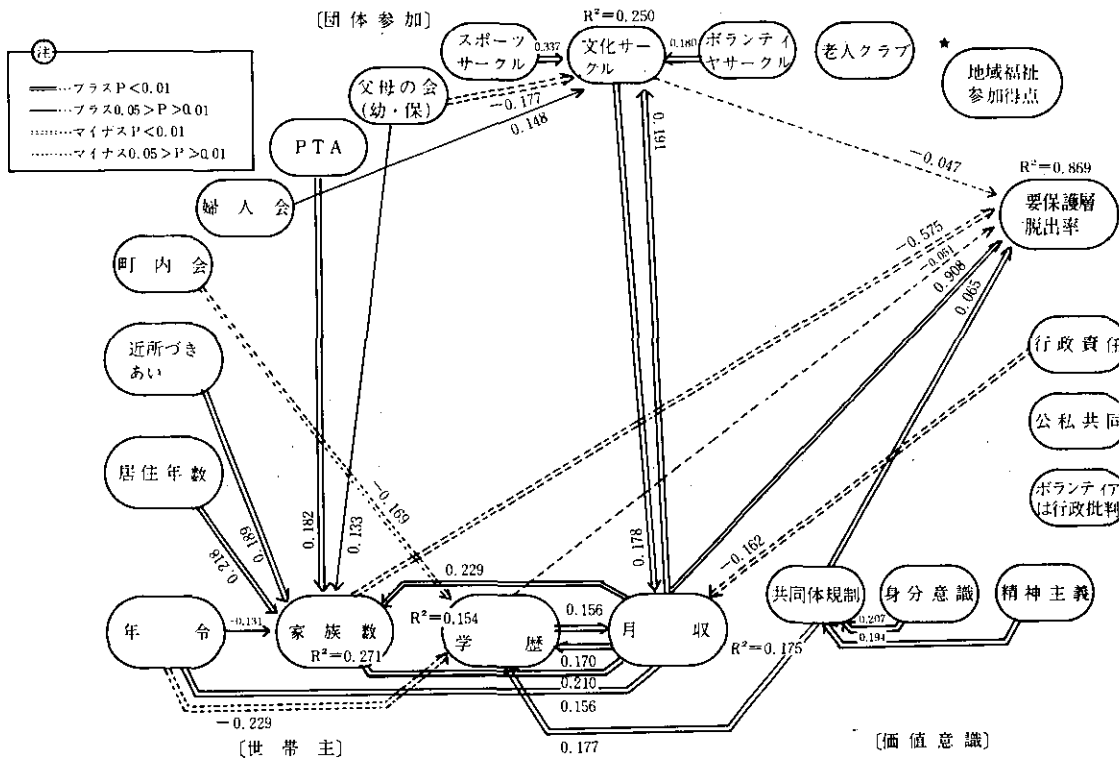


図 3-1-1 市民の要保護層脱出率へのパスダイヤグラム

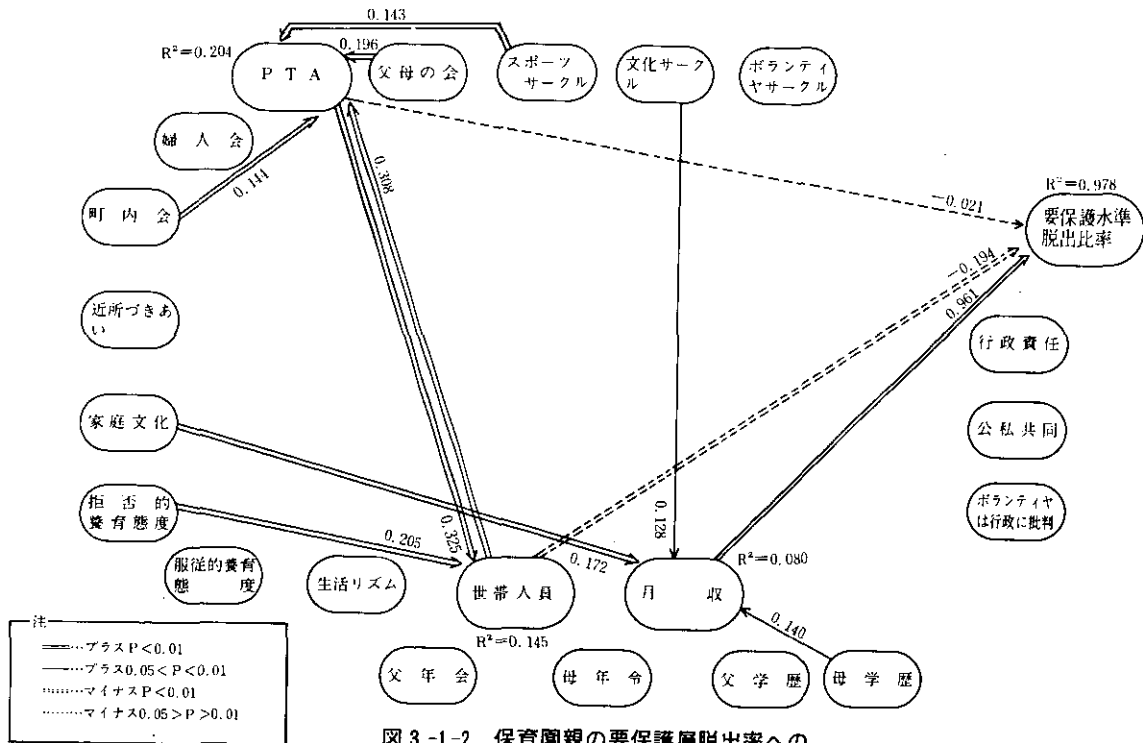


図3-1-2 保育園親の要保護層脱出率へのパスダイヤグラム

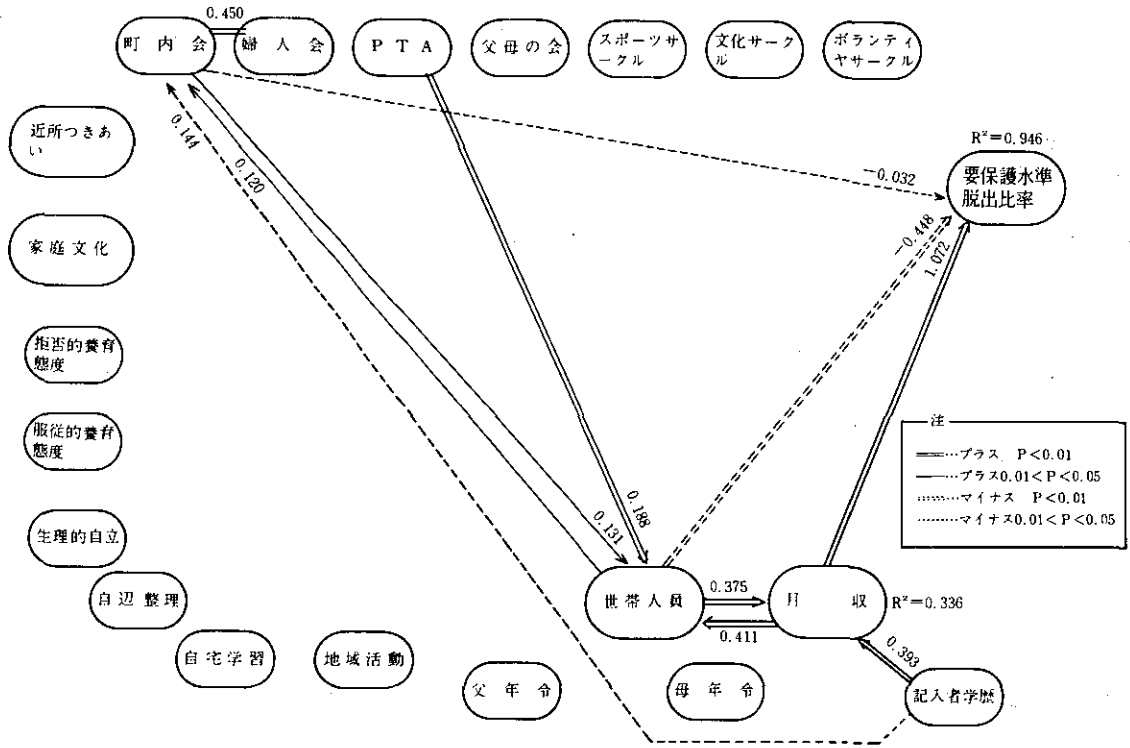


図 3-1-3 学童保育所親の要保護層脱出へのパスダイヤグラム

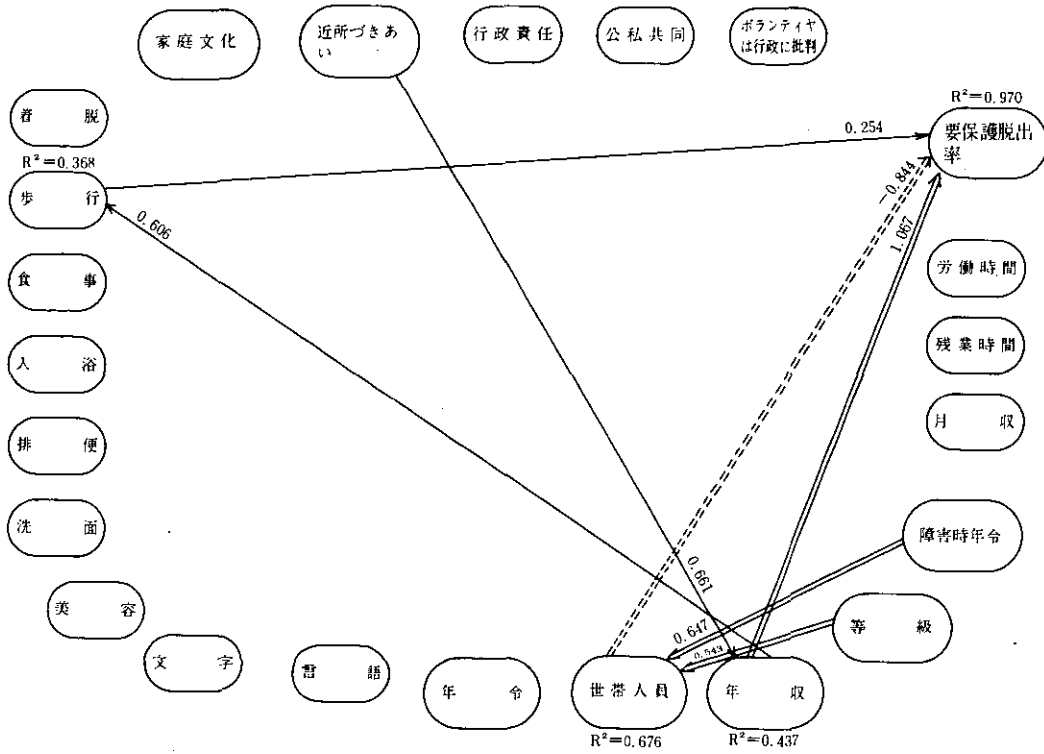


図 3-1-4 A 障害者団体の要保護水準脱出比率への  
パスダイヤグラム

親では要保護脱出率にはマイナス効果となり、K中学校親では関係が発生せず、生業資金受給世帯では高いプラス効果となっている。

この章でのダイアグラムによれば、近所づきあい得点では市民では世帯人員を通じてマイナス要因であるが、A障害者団体は逆にプラスとなっている。

このことは、生業資金受給者世帯や障害者団体員の近所づきあいが要保護層脱出にプラスになっていることを示めし、同時に、K小学校家庭や札幌市民に直接と間接においてマイナス効果となっていることは、全体的には要保護層ほど近所づきあいのきづながつよいことが考えられる。

3. 地域団体参加では、フォーマルな町内会、PTA、父母の会は世帯人員にかかわって、要保護層脱出率にはマイナス要因となっているが、文化サークル等の自発的サークルは収入に関わって要保護脱出率にはプラスの要因となっている。このことは低収入層はフォーマルな団体につながり、高収入層は文化サークルにつながっているとも考えられる。

そこで、家庭文化項目、近所づきあい項目の内部を因子分析法によってさぐり、再度要保護層脱出率への要因をさぐって行きたい。

## (2) 家庭文化・近所づきあい項目に関する因子分析

家庭文化項目群の因子をみるために因子分析(SPSSのFACTOR、主因子法)プログラムで算出させたところ、保育園親、共同学童保育所親では「1. 共同性」「2. 子供の協力」「3. 夫の協力」となり、A障害者団体員は「1. 共同性」「2. 文化性」「3. 計画性(家計簿)」が考えられた(表4-1-2参照)。

「近所づきあい項目」では、各調査で「便益性」「挨拶(つきあい)性」の2因子であり、A障害者団体員は「便益性」のみの因子となった。

## (3) 生活意識(態度)上の要因分析

そこで、「家庭文化の因子」と「近所づきあいの因子」とを加えて、要保護層脱出率への生活態度上のパスダイアグラムを、経済的社会的条件とを除いて、いわゆる自己努力可能と思われる変数で作成した結果が図



表 3-2-1 家庭文化に関する因子分析(主因子法, パリマックス回転後)

問	保 育 園 親			学 童 保 育 親			A 障 害 者 団 体			世 帯 更 生 資 金 借 受 世 帯			
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	4
1. 家族全員で「おはよう」という	0.364	0.106	-0.029	0.340	0.141	0.006	<b>0.744</b>	0.106	0.139	0.338	0.160	0.141	0.167
2. 朝食は家族全員で	<b>0.456</b>	0.020	0.147	<b>0.508</b>	0.016	0.080	<b>0.811</b>	0.254	0.217	<b>0.626</b>	0.031	0.089	0.143
3. 掃除は毎日していますか	-0.008	0.273	-0.351	0.073	0.121	<b>-0.415</b>	0.354	<b>0.437</b>	0.383	0.195	0.007	<b>0.435</b>	-0.058
4. 家族でテレビ, 新聞の内容を	0.375	0.267	-0.065	0.343	0.088	-0.118	<b>0.745</b>	<b>0.429</b>	0.227	—	—	—	—
5. 家具等を修理して使うか	0.071	0.231	-0.004	0.078	0.345	-0.124	<b>0.445</b>	<b>0.487</b>	0.242	0.097	<b>0.605</b>	-0.072	-0.031
6. 日, 祭日は家族で過すか	<b>0.479</b>	0.032	0.094	<b>0.455</b>	0.020	0.112	<b>0.763</b>	0.245	0.207	<b>0.616</b>	0.246	0.095	0.059
7. 毎月決まった貯蓄をしていますか	0.183	0.099	0.072	0.097	0.146	0.109	0.351	0.309	0.000	0.148	-0.020	0.019	<b>0.454</b>
8. 子供に父母の仕事を手伝, 手伝を	0.070	<b>0.439</b>	0.137	0.077	<b>0.711</b>	0.000	—	—	—	—	—	—	—
9. 夫は家事を手伝いますか	0.327	0.236	<b>0.517</b>	<b>0.458</b>	0.165	<b>0.514</b>	—	—	—	-0.012	0.129	<b>0.618</b>	<b>0.432</b>
10. 家計簿はつけていますか	0.058	0.236	-0.065	0.251	0.090	-0.015	0.177	0.095	<b>0.757</b>	0.175	0.278	0.030	0.195
11. 毎月の収支を家族が知っているか	—	—	—	—	—	—	<b>0.731</b>	0.334	0.233	0.105	<b>0.508</b>	0.268	-0.009
12. ローンの返済計画を家族全員で	—	—	—	—	—	—	<b>0.548</b>	0.142	0.351	—	—	—	—
13. 家族が仕事を分担していますか	—	—	—	—	—	—	<b>0.726</b>	0.300	0.108	—	—	—	—
14. 新聞を読んでいますか	—	—	—	—	—	—	0.286	<b>0.588</b>	0.113	—	—	—	—
15. 買物は必要なものだけ	—	—	—	—	—	—	0.104	<b>0.874</b>	0.072	—	—	—	—
因子の命名	共同性	子供の協力	夫の協力	共同性	子供の協力	夫の協力	共同性	文化性	計画性	共同性	工夫性	家事力	計画性
固有値	1.157	0.426	0.265	1.257	0.624	0.343	6.160	0.900	0.564	1.597	0.608	0.519	0.255

要保護層とその脱出への要因分析

表 3-2-2 近所づきあいに関する因子分析(主因子法、バリマックス回転後)

問	市 民		保 育 園 親		学 童 保 育 親		A障害者団体	生業資金借受世帯	
	1	2	1	2	1	2	1	1	2
1. 道であつたら挨拶をする	0.050	<b>0.580</b>	0.046	<b>0.558</b>	0.042	<b>0.567</b>	0.314	0.263	0.064
2. 道や買物であつたら立話をする	0.283	<b>0.669</b>	0.378	<b>0.608</b>	0.331	<b>0.545</b>	<b>0.711</b>	<b>0.420</b>	0.233
3. ひまな時に訪問して世間話をする	<b>0.559</b>	<b>0.505</b>	<b>0.707</b>	0.241	<b>0.646</b>	0.293	<b>0.830</b>	0.220	<b>0.723</b>
4. 一緒に買物をする	<b>0.650</b>	0.371	<b>0.643</b>	0.083	<b>0.607</b>	0.121	<b>0.833</b>	0.250	<b>0.563</b>
5. 外出の時、子供のお守りや留守番をたのむ	<b>0.610</b>	0.235	<b>0.710</b>	0.115	<b>0.708</b>	0.115	<b>0.825</b>	0.264	0.389
6. 不幸があつた時、手伝う	0.262	<b>0.546</b>	<b>0.683</b>	0.273	<b>0.692</b>	0.212	<b>0.790</b>	0.368	0.242
7. 車に乗せてあげる	<b>0.586</b>	0.331	—	—	—	—	—	<b>0.534</b>	0.372
8. 子供が遊びに行く	<b>0.479</b>	0.256	—	—	—	—	—	<b>0.461</b>	0.300
9. 食べものをおすそわけする	<b>0.525</b>	<b>0.513</b>	<b>0.542</b>	0.399	<b>0.536</b>	<b>0.457</b>	<b>0.604</b>	<b>0.728</b>	0.357
10. 品物を貸し借りする	<b>0.665</b>	0.178	<b>0.686</b>	0.235	<b>0.670</b>	0.191	<b>0.524</b>	0.349	<b>0.489</b>
11. 不用な品で相手に必要なものをあげる	<b>0.619</b>	0.379	—	—	—	—	—	—	—
12. お金の貸し借りをする	0.394	0.016	—	—	—	—	—	—	—
13. 家をあけてしばらく留守にする時、ペットや盆栽の世話をたのむ	<b>0.487</b>	0.189	—	—	—	—	—	—	—
因子の命名	便益的	挨拶的	便益的	挨拶的	便益的	挨拶的	(主因子分析のみ)	便益的	交流的
固有値	4.905	0.608	3.350	0.497	3.155	0.487	3.936	3.087	0.332

要保護層とその脱出への要因分析

3-3-1から図3-3-4である。

全体的に決定係数 ( $R^2$ ) が0.02~0.19までで経済的社会的条件を説明変数としたときとは比較にならないほど低くなっているが、その低さの中でも、人間の自己努力的な生活態度項目上の要因のパスダイアグラムは何かをさぐってみたい。

市民では、要保護層脱出へのプラスの第一次要因はボランティアサークルで、第二次要因はPTA、文化サークルである。マイナスの第一次要因は近所づきあいの「便益性」因子であり、第二次要因は「町内会、父母の会、スポーツサークル」の地域フォーマル団体参加があり、つづいて近所づきあいの「挨拶性」因子と、価値意識の「共同体規制」となっている。

保育園親では、要保護層脱出率への第一次要因はプラス要因で間接効果も含めて高いのは家庭文化得点の共同的因子であり、それへの第二次プラス要因は「夫の協力」「子供の協力」「生活リズム」「父母の会参加」であり、マイナス第二次要因は拒否的養育態度である。次のプラス要因は「文化サークル参加」であり、それへの第二次要因は「スポーツサークル参加」、家庭文化の「共同的」因子となっている。

学童保育所親では、要保護層脱出率へのプラスの第一次要因は近所づきあいの「便益的」因子であり、それへの第二次要因は近所づきあいの

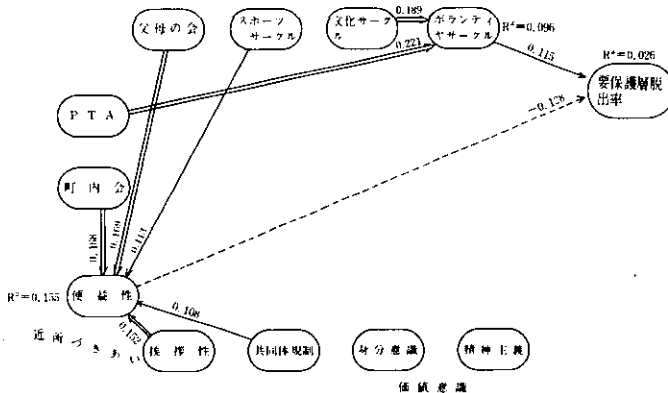


図3-3-1 市民の要保護層脱出率への生活態度上のパスダイアグラム

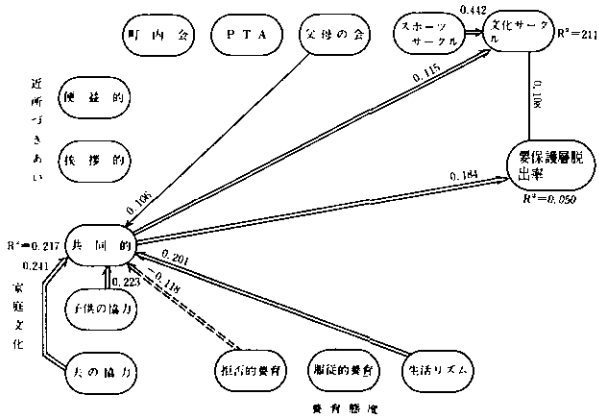


図 3-3-2 保育所親の要保護層脱出率の生活態度上のパスダイアグラム

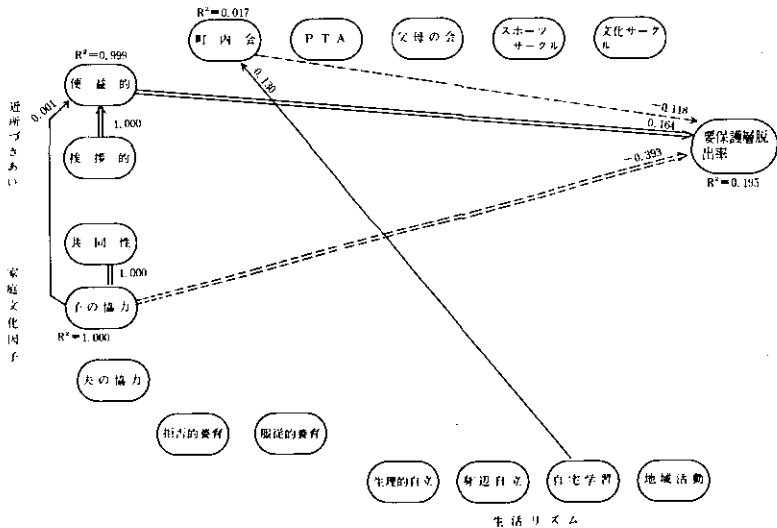


図 3-3-3 学童保育所親の要保護層脱出への生活態度上のパスダイアグラム

要保護層とその脱出への要因分析

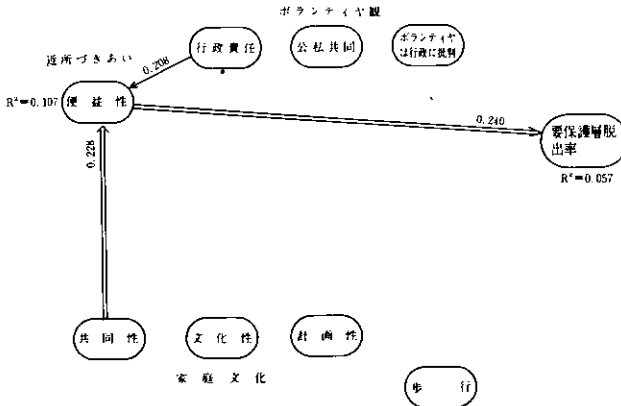


図 3-3-4 A 障害者団体員の要保護層脱出率への生活態度上のパスダイアグラム

「挨拶的」因子や、家庭文化の「子の協力」因子である。マイナスの第一要因は第1に「子の協力」因子であり、それは「共同性」因子につながっている。第2のマイナス要因は「町内会参加」であり、それへの第二要因は「自宅学習」となっている。

A障害者団体員では、要保護層脱出率への第1次要因は近所づきあいの「便益性」であり、それへの第2次要因は家庭文化の「共同性」因子となっている。

全体的に「家庭文化因子」をみてみれば、

1. 第1に多いのは「共同的因子」であり、保育所親が第一次に、学童保育所親、A障害者団体員は第二次で、要保護脱出にプラスの要因となっている。
2. マイナス要因としては、「子の協力因子」が学童保育所家庭で第一要因として関係づけられている。

次に「近所づきあい因子」では、

1. 「便益的因子」がプラスの要因となっているのは学童保育所親、A障害者団体員であり、逆に札幌市民調査ではマイナス要因となっている。このことは、近所づきあい得点でも同じであったが、特に

便益性因子は要保護層集団である程度の有効な要保護脱出へのプラス要因として作用していることを示している。

#### 4. ま と め

本論文のまとめとして、要保護層への促進と脱出の要因を、次のように要約しえらると思う。

1. 下部構造としての経済的土台が大きな要因となり、収入と家族数が矛盾する関係になっており、つまり要保護脱出は収入が増加しないとすれば世帯人員を減少させる関係となっている。つまり「うるわしき三世代家族の夢」はその内部に基本的矛盾を内包している構造になっている。つまり「うるわしき三世代家族の夢」は高収入を保障せねばならないし、そのためには賃金と社会保障制度の拡充が条件となることと思われる。
2. 健康管理能力としての疲労度と食事得点では、要保護脱出率への要因として、疲労度の高さ故の脱出であり、同時に食事得点も脱出への要因となっている。このことはやはり疲労度と食事得点とが内容的には矛盾する構造になっている。この矛盾への解決の条件は何かが今後問われる。その中でも、肉体的疲労度（K中学校親）と食事の「バランス性」（K中学校親、生業資金借受世帯）が中心の項目であり因子でもある。
3. 家庭文化は、第二次プラス要因として保育園親で発生したのみで、あまり全生活力上はつよくなく、因子分析による因子得点による分析では「共同性因子」が保育園親で最も高い。共同保育所親では「子の協力」がマイナス要因となり、A障害者団体員では第二次効果として「共同性」が関係しており、全体的には「共同性因子」が重要であるとも考えられうる。
4. 近所づきあいでは、福祉サービス利用層は要保護脱出への要因となっており、因子分析ではその中心に「便益的因子」があることが理解出来る。

こうして、上部構造としての生活意識、特に家庭文化としての「共同

### 要保護層とその脱出への要因分析

性」、近所づきあいとして「便益性」が重要であることが理解されうる。